



ゆかりびと

第12回

株式会社やいた未来

鈴木 恵子

さん



「おいしい」で人と人をつなぐ場所 道の駅やいた

道の駅やいたは、たくさんのお客様やさまざまな生産者さんが行き交う場所で、従業員を介して元気な会話や、楽しい笑い声が絶えません。中でも一番の元気印・恵子さんの声は、店内を明るくにぎやかに演出しています。

「道の駅やいたは、人と人をつなぎ、地域を元気にする場所」と話す恵子さんは、道の駅やいたをオープン当時から支える従業員の一人です。ここには、地元産の新鮮な農作物や加工品、お土産品などが取り揃えられており、連休や週末はもちろん、平日でも多くの人でにぎわう、矢板市が誇る人気観光スポットの一つです。開業以来売り上げと来場者数は右肩上がり、令和5年度は、年間8億3千万円を超える売り上げとなり、過去最高を記録した前年の7億8千万円を大幅に上回りました。

順調な運営を続ける道の駅やいたですが、恵子さんは「開業時は、不安と隣り合わせだった」と振り返ります。2011年4月、東日本大震災直後の混乱の中で開業したため、お客様や生産者さんを受け入れる体制が整わず、暗い店内で掃除やシステム管理をしながら不安な日々を過ごしたと言います。その後少しずつ活気を高めるも、コロナ禍の到来。にぎわいやふれあいを規制され、つらい時期を過ごしました。

「地元産の生産者さんが、丹精込めて作り上げた『おいしい』を、お客様につなぐこと。それが私たちの使命です。」そう話す恵子さんにとって、やっと戻りつつあるにぎわいは、元気の源のようです。

「生産者さんとおお客様の笑顔をつなぐ架け橋になりたい」そんな思いを胸に、店頭に立つ恵子さん。今日も元気な声が店内に響き渡ります。

Editor's Note 編集後記

▷広報紙で「ぜひ紹介してほしい」とリクエストが多かった道の駅やいたの恵子さん。いつも冗談ばかり言っている恵子さんですが、今回の取材では、人一倍努力家で仕事熱心な一面を垣間見ました。改めて尊敬です。(DYC)

▷太田南FCの皆さんを取材させていただいて、元気いっぱいの笑顔にとっても癒されました。「お食事処 城の湯」のごはんをおいしそうに食べているのを見て、お腹がなったのは秘密です。(あ)